

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	207	2年	前期	看護学科	必修	看護過程 Nursing Process	30	1
担当教員								
野本 百合子	徳永 なみじ	香川 里美		北川 恵		谷本 淳子	森 敬子	
関連するDPキーワード（看護学科）								
<input type="radio"/>	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
<input type="radio"/>	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
対象者への個別的な看護を提供できる看護職者としての基本的な思考過程を修得するために、問題解決技法の考え方を基盤として模擬事例に関する情報を系統的に分析・統合した結果に基づく看護計画を立案し、その過程を通して、看護を提供する際の思考過程を学習する。								
到達目標（授業目標）								
①問題を解決するために必要な問題解決技法の考え方を説明できる。								
②問題を特定する方法、解決策の種類を列挙できる。								
③個別性のある看護の実施に向けて、看護過程の考え方をを用いる目的を説明できる。								
④看護過程の各段階を具体的に説明できる。								
⑤看護過程における対象者との相互行為の意義と関連を説明できる。								
⑥模擬事例の情報を系統的に分析・統合し、看護上の問題を特定できる（1事例目はグループワーク、2事例目は個人ワーク）。								
⑦特定した看護上の問題の優先順位を決定し、その理由を記載できる。								
⑧具体的な看護計画を立案し、その理由を記載できる。								
⑨グループで検討した「看護上の問題」、「看護計画」を他者に理解できるように発表できる。								
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）							
1回	問題解決過程と看護過程 授業進行に関するオリエンテーション、看護過程を用いる意義、問題解決過程とは何か（野本）							
2回	看護過程① 一情報アセスメントの進め方の実際、【事例1】の紹介（野本）							

3回	同上 【事例Ⅰ】〔グループワーク〕①：情報の整理とアセスメント（全教員）
4回	看護過程② ー関連図の作成と看護上の問題抽出・優先順位決定の実際（野本）
5回	同上 【事例Ⅰ】〔グループワーク〕②：関連図の作成と看護上の問題抽出・優先順位の決定（全教員）
6回	看護過程「第3段階」① ー看護上の問題の優先順位と看護の方向性の決定（野本）
7回	同上 ②〔グループワーク〕 ー事例Ⅰ：看護上の問題の優先順位と看護の方向性の決定（全教員）
8回	看護過程の検討結果の共有①〔第1回グループ発表〕看護上の問題を特定した経緯と優先順位の発表（全教員）
9回	看護過程③ ー看護目標の設定と看護計画の立案／実施と評価（野本）
10回	同上 【事例Ⅰ】〔グループワーク〕⑤ー看護目標の設定と看護計画の立案／実施と評価（全教員）
11回	看護過程の共有【事例Ⅰ】〔グループ発表〕②：「看護目標と看護計画」の成果発表（全教員）
12回	看護過程【事例Ⅰ】グループ発表のまとめ・【事例Ⅱ】の紹介／検討成果の見直し〔グループワーク〕⑤（野本／全教員）
13回	同上 【事例Ⅱ】〔個人ワーク〕①：情報の整理とアセスメント・関連図の作成（全教員）
14回	同上 【事例Ⅱ】〔個人ワーク〕②：看護上の問題抽出・優先順位の決定、看護の方向性の検討（全教員）
15回	同上 【事例Ⅱ】〔個人ワーク〕③：看護目標の設定と看護計画の立案（全教員）
16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
21回	
22回	
23回	
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	

成績評価方法及び基準

1事例目のグループワークのために作成した個人レポート及びグループワークへの貢献度（50%）、2事例目の個人ワークで作成したレポート及び学習への取り組み態度（50%）を評価する。トータル60点以上を合格とする。

教科書	特に指定せず、必要な書籍を適宜紹介する。
参考図書等	ロザリнда・アルファロ・ルフィーヴァ、本郷久美子「基本から学ぶ看護過程と看護診断」（医学書院） 松木光子「JNボックス ケーススタディ看護過程－根拠に基づく看護診断から評価まで」（医学書院） 任 和子「実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイドーヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによる」（照林社）

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）

2事例目について看護過程を展開する。1事例目は個人の看護過程展開レポートを元に、グループでレポートを作成し、発表する。第1回は「アセスメント～看護上の問題」、第2回は「看護計画の立案」についてグループで発表する。2事例目は個人で展開する。いずれの事例も、個人レポートを元に、グループワークや教員からの指導を受けるため、事前学習が必須であり、授業への参加には事前学習のレポートを持参する必要がある。

関連科目

前科目	144	人体の構造・機能Ⅰ	145	人体の構造・機能Ⅱ	146	人体の構造・機能Ⅲ	201	看護学概論	203	基本援助技術論
後科目	209	基礎看護学実習Ⅱ	215	成人看護学慢性期実	218	老年看護学実習	249	総合実習		

実務家教員

看護師（医療機関）	野本 百合子	徳永 なみじ	香川 里美	北川 恵	谷本 淳子	森 敬子

備考	関連科目として、上記以外に「204 生活援助技術論Ⅰ」「205 生活援助技術論Ⅱ」「206 診療援助技術論」「208・209 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」の他、看護学各領域の科目
----	--